

シェルの「2025 エネルギーセキュリティシナリオ：エネルギーと AI」（1）

角 和 昌 浩 （かくわ まさひろ）

木 原 正 樹 （きはら ま さ き）株式会社フューチャーネス 代表 兼 シナリオプランナー

要約 今回と次回は、2025年2月にシェルが公開した最新のグローバルエネルギーシナリオ「2025 エネルギーセキュリティシナリオ：エネルギーと AI（以下「ESS2025」）」を、ご紹介します。本シナリオ作品では、前作「2023 エネルギーセキュリティシナリオ」の基本構造を継承しつつ、「AI 技術の進展は、世界のエネルギーシステムにどのような意味を持つか？」という問いに答えるべく、第3の探索的シナリオ「Surge」が追加されました。今回は ESS2025 の概要についてです。なお、本稿は、『シェルの「2025 エネルギーセキュリティシナリオ：エネルギーと AI」』（JOGMEC 石油・天然ガスレビュー、2025.7 Vol.59 No.4、https://oilgas-info.jogmec.go.jp/review_reports/1010388/1010562.html) を、本誌の趣旨に合わせて再編集した論考です。

1. はじめに

本稿は、シェルの『2025 エネルギーセキュリティシナリオ（英：The 2025 Energy Security Scenarios、以下「ESS2025」と表記）』の解説を試みる。

本稿は、英語で書かれた原文を、目次通りに、正確に逐語訳をしたものではない。筆者はシェルのシナリオ作品の意図を尊重しながらも、あくまで、この作品を読み込んだ筆者側の個人的解釈を含んだ紹介を書く。日本語で語る所以需要あれば意識し、言葉を足した。行論のロジックをはっきりさせたいので恣意的に割愛した部分もある。正確性を求める読者は原文を当らりたい¹。

2. ESS2025 のフレームワーク

「ESS2025」は、『Energy and artificial intelligence』という副題の示唆するとおり、エネルギーセキュリティ問題と将来の AI 技術の進展がエネルギーシステムに与える影響について書かれたシナリオ作品であ

り、2023年3月に発表された ESS2023 の改訂版である²。この節では ESS2025 のフレームワークとアプローチについて、シナリオ理論を援用しながら説明する。読者諸賢がこのシナリオ作品を理解する際の道しるべとなるでしょう。

2.1 現状分析

2.1.1 カスタマーの問題関心

シナリオプランニングの仕事では、出来上がったシナリオ作品を誰に役立ててほしいのか、すなわちカスタマーを想定する。シナリオチームは日常的に、世界中の新しいトレンドを観察し、リサーチしているが、いよいよシナリオプロジェクトを始めると、カスタマーを特定し、カスタマーの視角に立ってリサーチテーマを絞り込んでゆく。

ESS2025 を通読すると、シェルは主なカスタマーを「エネルギー・脱炭素産業」としたことがわかる。2年前の ESS2023 では、気候変動問題に特段の関心を寄せる各国政治家や所轄行政府をも、読者（カスタマー）に想定していたのだが、この姿勢からは明らかに退いた。

そうなると、シナリオ分析の入口となる現状分析作業では、「エネルギー・脱炭素産業」の立場から、未

¹ Shell (2025) The 2025 Energy Security Scenarios: Energy and artificial intelligence, https://www.shell.com/news-and-insights/scenarios/the-2025-energy-security-scenarios/_jcr_content/root/main/section_1902297548/promo/links/item0.stream/1746784000258/ca7e977082c0ee7f8e60e87fa41556287d3be0cf/the_2025_energy_security_scenarios.pdf

² 詳細は、角和・木原（2023）シェルの「エネルギーセキュリティシナリオ 2023」、石油・天然ガスレビュー 2023年07月号、https://oilgas-info.jogmec.go.jp/review_reports/1009607/1009851.html を参照ください。